



能登国分寺公園（国指定史跡）

能登国分寺は、承和10年（843）に定額大興寺を国分寺にしたことに始まり、能登の仏教の教えの場として栄えました。平成4年10月に全国有数の史跡公園としてよみがえり、市民の憩いの場となっています。

室木家（市指定文化財）

江戸時代から明治時代にかけての庄家、室木氏の屋敷です。明治12年から10年がかりでつくられた、豪壮な合掌組入母屋造りで、調度品とともに、当時の庄家の暮らしぶりを知る貴重な遺産です。



東嶺寺（市指定文化財）

この地方の領主であった長氏の菩提寺として建立されました。その際に尾張国より二人の指物師を招き、戸障子・欄間の製作にあたらさせました。そのことが、精巧で優美な細工と高度な仕上がりをもち、田鶴浜建具の技の発端となっています。



赤倉神社

寛文4年（1664）、標高179メートルの赤蔵山麓に建てられ、鳥居をくぐると仁王門が迎え、拝殿はまるで寺院のような造りとなっています。深い木立の中に建つ社殿の姿は格調高く美しいものです。



赤倉神社のある三引の祭礼で、五穀豊穡を祈って奉納される能登では珍しい獅子舞です。ジジ面対ババ面の演舞や獅子に猿の子が付いて回るなど古い伝統がそのまま受け継がれた獅子舞と言われています。

三引獅子舞 (市指定文化財)



「七尾まだら」は、昭和36年11月3日、古くから船方の祝儀唄として九州地方より伝わった民謡と言われています。現在も広く唄われています。産み字を非常に長く引き、合唱で唄うところに特徴があります。

七尾まだら (県指定文化財)

「雨乞い太鼓」より発達したものとされています。「大バイ」は雷鳴を表し、「小バイ」は雨の音、「鉦」は稲妻を表現しています。昭和2年に愛好会として出発、昭和30年に七尾豊年太鼓保存会を結成し、技能伝承者の育成に努めています。

七尾豊年太鼓 (市指定文化財)

